

剪枝を利用した茶の炭疽病防除について

～海外輸出に向けた薬剤散布に頼らない管理方法～

剪枝（せんし：新しい枝を出すために茶樹を刈り込むこと）時期の違いが茶の炭疽病発生に及ぼす影響を調べた結果、二番茶後の剪枝により秋芽生育期の炭疽病病葉数が減少することがわかりました。

1. 背景と目的

全国的に茶の消費が低迷しており、販路拡大のため輸出に向けた取り組みが行われています。本県でも茶商社の要望を受け、台湾向けに輸出できる茶を生産するための防除暦を2017年度に整備し、毎年見直しを行っています。しかし、国ごとに残留農薬基準値は異なるため、輸出対象国を拡大するにはその国に合った防除暦を作成する必要があります。そこで、より多くの国に対応できるよう、薬剤散布の代替となる技術を検討しており、今回、剪枝による炭疽病の防除効果を調査しました。

2. 研究成果の概要

2019～2021年の3カ年、慣行である一番茶摘採後の約2週間後に摘採面より5cm下で剪枝し、二番茶摘採後は剪枝なしの区（以下一番茶後剪枝区）と、一番茶後は摘採面での刈り揃えのみで二番茶摘採後の約1週間後に5cm下で剪枝した区（以下二番茶後剪枝区）について、二番茶芽と秋芽の炭疽病病葉数を調査しました（表）。剪枝後の茶株面の状態は図1のとおりで、剪枝により茶株面の二番茶摘採残葉はほぼ無くなります。試験期間中、殺菌剤は散布していません。

表 処理内容

処理区	一番茶	二番茶
一番茶後剪枝区（慣行区）	剪枝あり	剪枝なし
二番茶後剪枝区	剪枝なし	剪枝あり

注）処理時期は一番茶は摘採約2週間後、二番茶は摘採約1週間後



図1 二番茶後剪枝の有無による茶株面の違い
左：剪枝なし、右：剪枝あり

調査の結果、一番茶後剪枝の有無で二番茶芽の炭疽病病葉数に差はなく、二番茶後剪枝により秋芽の炭疽病病葉数が減少することがわかりました（図2、3）。この理由として、剪枝により、二番茶摘採後に増加してくる感染源となる病葉が除去されるためと考えられます。

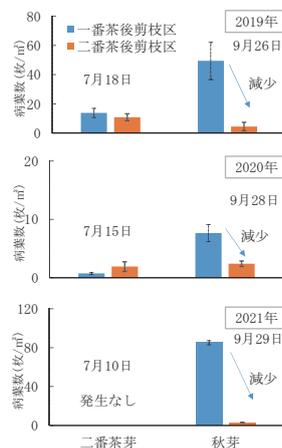


図2 剪枝時期の違いが炭疽病病葉数に及ぼす影響 (n=3)
注) 図中バーは標準誤差、日付は調査日



図3 炭疽病病葉（2021年9月）
左：一番茶後剪枝区、右：二番茶後剪枝区

3. 実用化に向けた対応

今回、二番茶後の剪枝により秋芽の炭疽病が減少することがわかりました。また、翌年の一番茶収量は、二番茶後の剪枝の有無で差はありませんでした。しかし、夏の深い剪枝が翌年の一番茶収量に与える影響が懸念されるので、引き続き翌年の生育に影響のない剪枝時期についても調査し、産地に役立つ技術に繋げていきたいと考えています。

（大和茶研究センター 谷河 明日香）